

広町緑地を開発から守った25年にわたる 市民の運動は、どのようなであったか

< パワーポイント運動史目次 >

安倍 精一

1. 運動のはじまり 主婦達が見つけた開発の動き (1975年前後)
 2. 6万人の署名運動 (新鎌倉山緑の会1979, 署名運動1983)
 3. 「鎌倉の自然を守る連合会」の結成 (1984)
 4. 第一回市民集会の開催 (1985)
 5. 「緑保全調査研究報告」の作成・提出 (1986)
 6. 緑基金の募金運動と市の緑基金への寄付 (1987)
 7. 市長の開発容認と女の一揆 (1989)
 8. 開発派市長再選と12万人署名運動 (1989~1990)
 9. 開発素案の住民説明会と市長広聴会 (1991~1992)
 10. 広町の山歩きと貴重な自然度A1ランク (1979~A1.1993)
 11. 開発か保全かを決する市長選挙 (1993)
 12. 市の緑条例制定を求める22万人署名運動 (1994~1995)
 13. 三者協議(市・事業者・市民)の実施(7回) (1995~1996)
 14. 開発手続き再開!と緊急市民集会の開催! (1998)
 15. 鎌倉広町みどりトラストの推進 (一次1998、2次1999~)
 16. 事業者の開発計画に関する住民説明会の開催 (1999)
 17. 県の環境アセスメントへの意見書提出 (2000)
 18. 鎌倉市の「都市林」政策決定 (1998~2000)
 19. 三市民団体共催の市民集会和直接要請行動 (2001)
 20. 広町保全協議と土地鑑定書提出 (2001~2002)
 21. 広町緑地全面保全の実現!! (2002年10月 !!)
 22. 広町緑地「都市林」構想の推進 (2003~)
 23. 国・市からの表彰及び広町の保全を祝う会 (2004)
 24. 広町緑地「都市林」の開園⇒市民主体の運営へ (2005~)
 25. 保全運動史の編纂及び各方面寄贈 (①~2008、②~2015)
 26. ~広町保全運動史の主な成功要因~
 27. 総括：保全運動の特徴
 28. 環境経済学者・福岡克也教授の運動史寄稿文
 29. 広町の森を未来の子供達にも渡そう!!
 30. 謝 辞
- (注) 25年というと話が長いので、途中で一時小休止の予定。

～広町保全運動の主な成功要因～

1. 自治会を基盤とした連合体を初期段階に確立・推進。これが第一、これに加えて、
 - ・ 運動の指導部が、最初から最後まで不変。
 - ・ 女性（特に家庭婦人）達の活躍が極めて大。
2. 情勢に対応して、多種多様な運動を展開。
 - ・ 署名運動、市民集会、トラスト運動 等々、
3. 「緑保全」一本に絞って、市政の転換と広町の保全策の実施を求める運動を推進。
4. 鎌倉内外の幅広い市民の協力を受け、
 - また、有識者の方々の支援も受けた。
5. 住民・市民の支持と協力を得るように広報に努力。（記者会見、連合会ニュース）
6. 広町緑地の自然度への理解向上に努める。
広町の自然調査や散策会の度重なる実施。
神奈川県「地域環境評価書」で自然度A1評価。
7. 住民の緑に対する希求・願望が非常に大だった。
環境の時代の中で緑を守ることに、多くの市民の共感・協力が得られた。
8. 初期には、先行した市民運動の経験を学んだ。
9. 陳情や住民説明会における文書による提出励行。市及び市議会等への陳情/通算70件。
10. 何よりも、20数年におよぶ粘り強い市民の運動によって、幅広い皆様の支持を得て
遂に市・県・国を動かし、緑保全が実現した。

保全運動史の編纂及び各方面への寄贈

連合会は、25年に及ぶ保全運動の歴史を編纂すると共に、地元はもとより全国の参考に供するため、各方面に図書を寄贈。（2015年～）

①第1冊目：連合会著、港の人社刊行 2008/12
「鎌倉広町の森はかくて守られた」307頁

市販本で、連合会内外で販売。68冊寄贈。

②第2冊目：連合会編纂・自主発行 366頁

「鎌倉広町緑地保全運動史」（*） 2015/5

国会・県立図書館63冊、大学71冊、市・県
・国12冊、市民団体6冊 計 152冊寄贈。

（*）には、陳情書、署名用紙、トラスト書類、

連合会ニュース等の実例を多数収録したCD添付。

内橋克也先生（各方面の支援に何を恩返しするか？）

→安倍（運動史を編纂し、各方面に寄贈する。）

*鎌倉・藤沢の市図書館や広町周辺の小中学校にも寄贈。



環境経済学者 福岡克也教授の運動史寄稿文

— 「広町緑地保全運動に学ぶ」 —

- 万類の共有財産としての森林
人間の進歩と繁栄は、自然との共生によってのみ成立つ。
- 現実の自然環境の危機を乗り越えるためには、「経済成長と科学文明に象徴される自然収奪型の人間社会のあり方」を根本的に改めなくてはならない。
- 特に森林は、二酸化炭素の吸収、酸素の放出、気象の緩和、居住環境の維持や生物多様性の維持や生物多様性種の保存など、極めて重要な環境資源。
→ 森林の保全は、地球温暖化対策にも重要。
- 環境財産としての貴重な森林を守る市民運動が多く地域で行われたが、無念の思いの中で挫折することが少なくなかった。
- そのような中で、鎌倉広町の森を守った25年間の市民運動は、森林保全に可能なすべての手段を総動員し、遂に成功を勝ち得たことは特筆すべきものである。
- 広町の運動は、一地域の運動にとどまらず、環境や自然と共生する新たな文明へと世界を導いていく力となった。
- 運動史を通じて、人生の重要な時期をこの運動に投じた人々の真の姿を残したことに敬意を表する。